

「徳島県気候変動対策推進計画（適応編）」概要

1 改定の趣旨

全国初の「脱炭素社会の実現」を掲げた「すだちくん未来の地球条例」の理念に基づき、平成28年度に策定した「気候変動適応戦略」が終期を迎えるにあたり、新たな課題を踏まえ、気候変動の脅威に立ち向かう強い決意を共有し、「2050年カーボンニュートラル」を目指す「緩和策」との両輪で、県民総活躍による気候変動対策を推進するため、本県における「適応策の基本方針」として改定する。

2 新たな課題

- ① 平均気温の更なる上昇や数十年に一度の集中豪雨・大型台風が頻発
- ② 気候変動の影響に関する新たな知見の活用及び「適応策」の浸透
- ③ コロナ後の「新たな生活様式」に対応した「適応ビジネス」の創出

3 計画の特徴

- ① 「気候変動」を「危機事象」と捉え、新たに「事前復興」対策を対象分野にするとともに、本県が誇る豊富な「自然エネルギー」を活用した自立・分散型電源供給システムや水素の災害時活用を推進
- ② 気候変動の影響・将来予測に係る最新の知見や広域的な研究を踏まえた分野別の新たな適応策の展開及び「徳島県気候変動適応センター」を核とした普及啓発の強化
- ③ 適応に資する環境関連製品や新技術の開発によるビジネスチャンスの拡大など、アフターコロナ時代を見据えて「気候変動の影響に係るプラス面」を効果的に活用

対象分野

分野	主な項目
事前復興	河川・沿岸、山地・森林・農村・砂防、自然・水素エネルギー
自然生態系	陸域生態系、沿岸生態系
水環境・水資源	水環境、水資源
健康	暑熱、感染症
産業経済	産業経済、観光、消費生活、その他県民生活に関するもの
農林水産(食料)	農業、水産業



適応すだちくん

4 目指すべき将来像

「気候危機を迎え撃つ、強く、しなやかな徳島」

5 計画期間

令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までの3年間

分野別の影響及び基本施策

●下線・太字は新たに重点的に取り組む施策

1 事前復興

地域特性 台風の常襲地帯、急峻な地形や脆弱な地質

現況

河川・沿岸

- ・大雨日数が増加傾向
- ・海面が過去50年で5cm上昇

山地・森林・農村・砂防

- ・降水量に比例し、山地災害が増加

自然・水素エネルギー

- ・数十年に一度の集中豪雨や大型台風による災害が頻発し長期停電被害が発生

将来予測

河川・沿岸

- ・水害が頻発・激甚化
- ・海面上昇に伴い、高潮・高波の増加等による浸水被害リスクの増大

山地・森林・農村・砂防

- ・集中的な崩壊、がけ崩れ、土石流の頻発
- ・中山間地域での風倒木災害の増大

自然・水素エネルギー

- ・燃料の輸入に何らかの問題が発生した場合、エネルギーの確保に支障を来すことが懸念

気候危機を迎え撃つ
強く、しなやかな県土づくり



(平成26年8月豪雨(那賀町))

今後の方向性と取組み

自然災害を迎え撃つ“県土強靱化”

- **流域単位で「流域水管理行動計画」を策定し、事前防災・減災対策を積極展開**
- 河川・海岸・砂防・治山施設などの整備を推進し、被害を最小限化
- 県民の防災意識の向上

地域資源を活かした事前復興対策の強化

- **「防災人材育成センター」と「気候変動適応センター」の連携による「適応策」の普及啓発**
- 農山漁村の多面的機能を活用するため、農地や森林等の保全活動を推進
- **事前復興に資する自然エネルギーの「自立・分散型電源」としての活用、水素の災害時利用を促進**

主な指標

- ☑重点対策河川の整備推進 令和4年度までに83%
- ☑生命線道路の強化率 令和4年度までに80%

2 自然生態系

地域特性 サンゴ生態系、河口干潟、高山地域など多種多様な生態系が存在

現況

陸域生態系

- ・ニホンジカの分布拡大による植物の被害拡大

沿岸生態系

- ・アカウミガメの上陸、産卵・ふ化率の変化、サンゴの食害発生

将来予測

陸域生態系

- ・ニホンジカによる生態系への影響拡大
- ・ブナ林の他の樹種への変遷、「シコクシラベ」の植生域に変化

沿岸生態系

- ・アカウミガメのふ化率減少、子ガメの性比の変化、産卵場(砂浜)の減少、より高温性のサンゴの種へ移行の可能性



(県絶滅危惧種シコクシラベ)

今後の方向性と取組み

本県固有の自然特性と生物の生息環境の保全

- 「生物多様性とくしま戦略」に基づく地域資源の持続可能な利用を促進
- モニタリングの体制整備・拡充やデータの蓄積・活用

Eco-DRR(生態系を活用した防災・減災)の推進

- **防災・減災に資する生態系を保全するため、気候変動に適応する広域アクションプランを策定**

本県の豊かな生態系を保全
防災・減災に活用

主な指標

- ☑生物多様性リーダーの普及啓発活動回数 令和4年度までに20回

3 水環境・水資源

地域特性 多様な水環境の形成、急峻な地形による渇水の多発

現況

水環境

- ・公共用水域の水温が過去30年で上昇傾向で水質変化も発生(全国)

水資源

- ・雨の降り方が二極化、深刻な渇水が発生

将来予測

水環境

- ・植物プランクトン増加等による水質悪化

水資源

- ・河川の流況等の変化や渇水の頻発化
- ・生態系や水産業、水利用者への影響、塩水化

健全な水環境の形成と
渇水被害の最少化



(25年7月那賀川水系渇水)

今後の方向性と取組み

美しく豊かな水環境の保全

- 「瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画」に基づき、沿岸域の水環境を保全
- モニタリング、普及啓発

水資源の持続的活用

- **「里海」創生リーダーによる「とくしまのSATOUMI」の継承**
- 観測網の整備等による地下水の安定供給

主な指標

- ☑水環境基準の達成率 令和元年～4年度 100%

4 健康

地域特性 高齢化率が高く、熱中症等のハイリスク者の占める人口割合が多い。

現況

暑熱

- ・県内の熱中症搬送者数が増加傾向

感染症

- ・国内で平成26年「デング熱」発生
- ・高温多湿に伴う感染症の増加

将来予測

暑熱

- ・熱中症搬送数「1.80倍」
- ・熱ストレス超過死亡数「3.08倍」の予測

感染症

- ・ヒトシジマカの分布拡大
- ・更なる感染症の増加が懸念

環境変化に柔軟に対応
健康で長寿のとくしまづくり

主な指標

- ☑感染症情報発信のための
メーリングリスト登録数
令和4年度までに1,000箇所

今後の方向性と取組み

熱中症の広報啓発の強化

- 高齢者等ハイリスク者を中心とした対策強化
- **「ニューノーマル」に適合した熱中症対策の推進**

感染症対策の体制整備

- **分散避難による避難所感染症対策の推進**
- 「未知の感染症」への対応を見据えた
医療資機材の確保・スムーズな供給体制の構築



5 産業経済

地域特性 自然や文化など優れた観光資源、多様な体験型観光

現況

観光

- ・豪雨等による道路の通行止めで観光地等へのアクセスが困難となる事例、営業停止等の発生

※産業経済は現段階で把握している事例なし

将来予測

産業経済

- ・企業のサプライチェーンへの影響の発生
- ・温暖化への対応製品やICT等に関するビジネスチャンス拡大

観光

- ・沿岸レジャー縮小、スキー場の滑走可能日数減少
- ・冬季の観光資源発掘や体験期間の拡大

「環境と経済の好循環」に
向けたビジネス・地域資源の発掘

今後の方向性と取組み

影響によるリスクの回避

- 事業活動への影響を情報提供し、
企業の適応の取組促進
- 異常気象時等の観光客の安全安心
の確保

地域経済の活性化

- 適応策に資する関連技術、製品開発の取組促進
- **適応ビジネスの創出に向けた「徳島版ESG地域金融活用協議会」の活用**

主な指標

- ☑ESG金融活用制度による支援件数
令和4年度までに35件



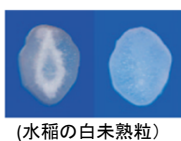
6 農林水産(食料)

地域特性 自然環境を活かした多種多様な農林水産物の生産、関西市場での高いシェア率

現況

農業

- ・水稲、果樹の品質低下
- ・乳用牛の乳量等低下
- ・病害虫の分布域拡大
- ・農業用施設等の被害発生



(水稲の白未熟粒)

- ・ハウス栽培における暖房コスト低減
- ・みかんを樹上で完熟させる栽培

水産業

- ・漁獲量の変化(北方系魚種の減少)
- ・南方系魚介類の漁獲量が増加傾向
- ・養殖ノリ、ワカメの収穫量減少
- ・高波被害、海岸侵食等のリスク増大

将来予測

農業

- ・水稲の品質低下
- ・果樹の栽培適地北上、生育障害発生
- ・家畜の成長への影響
- ・害虫構成の変化や被害の拡大
- ・農地、農業用施設等の被害のリスク増大
- ・熱帯性果樹の低コスト栽培が可能な地域の拡大

安定的な生産体制の確立
と新たなブランド創出



(マンゴー)

水産業

- ・高水温を原因とする漁獲量の低下
- ・養殖業における高水温化によるへい死率増加
- ・海面水位の上昇による漁港機能・施設への影響
- ・ブリ養殖における秋冬期の成長促進、避寒に係る省力化

今後の方向性と取組み

新たなとくしまブランドの創出

- **熱帯性果樹の低コスト栽培技術の開発・実証**

漁港・農業基盤の安全確保

- 漁港及び海岸保全施設の整備
- 農業用排水施設及びため池等の整備

主な指標

- ☑熱帯性果樹の栽培実証経営体数
令和4年度までに10経営体
- ☑「あきさかり」の作付面積
令和4年度までに2,550ha

安定的な生産・供給体制の確立

- 気候変動による影響を回避・軽減する
生産技術や適応品種の開発・普及
- 影響を受けにくい陸上養殖技術の開発

(高温耐性水稲品種あきさかり)

